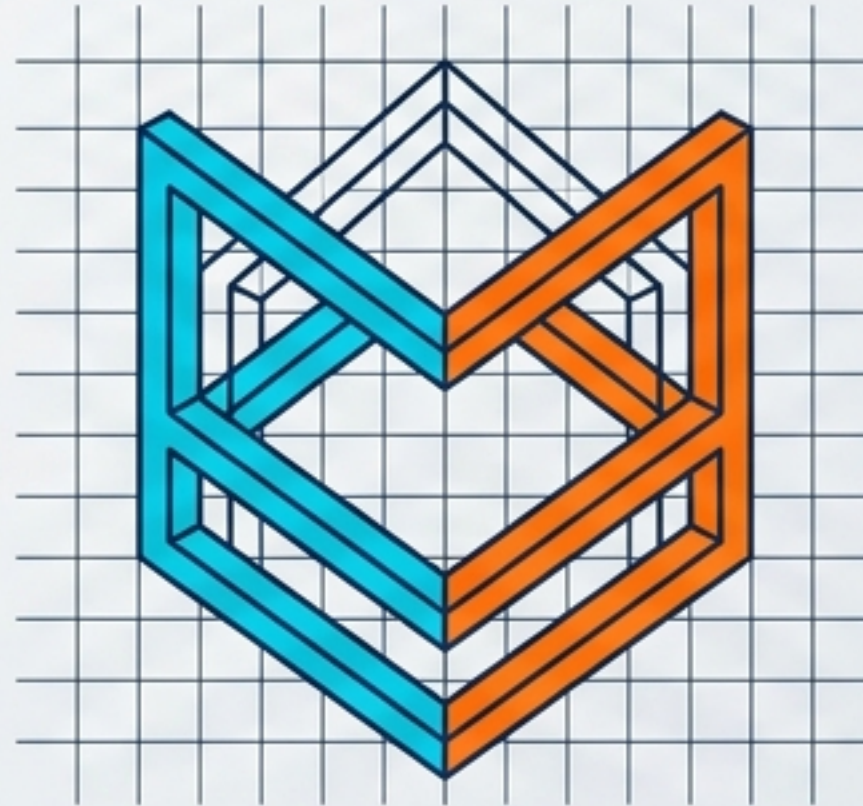
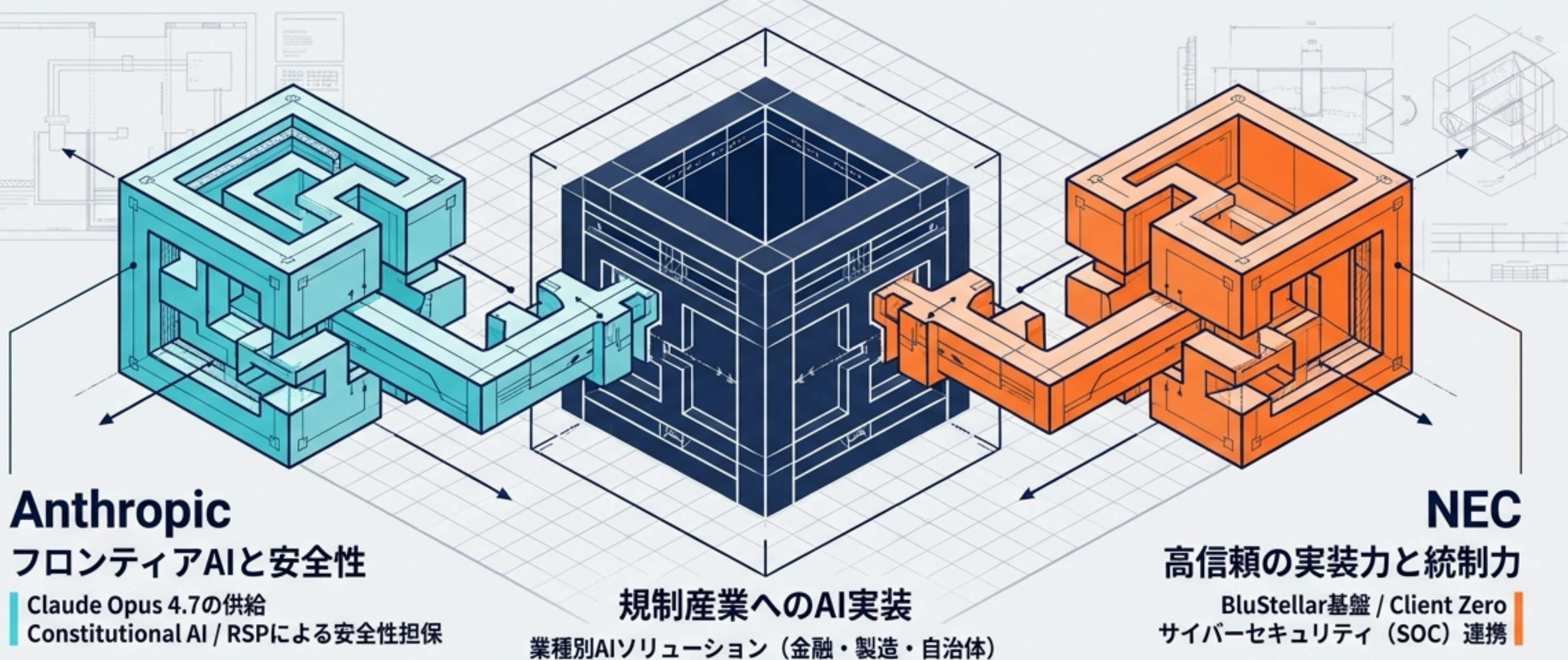


# 信頼のアーキテクチャ： NEC×Anthropic協業の深層

規制産業における「実装同盟」の解剖と、  
日本企業が直面する二層戦略の現実

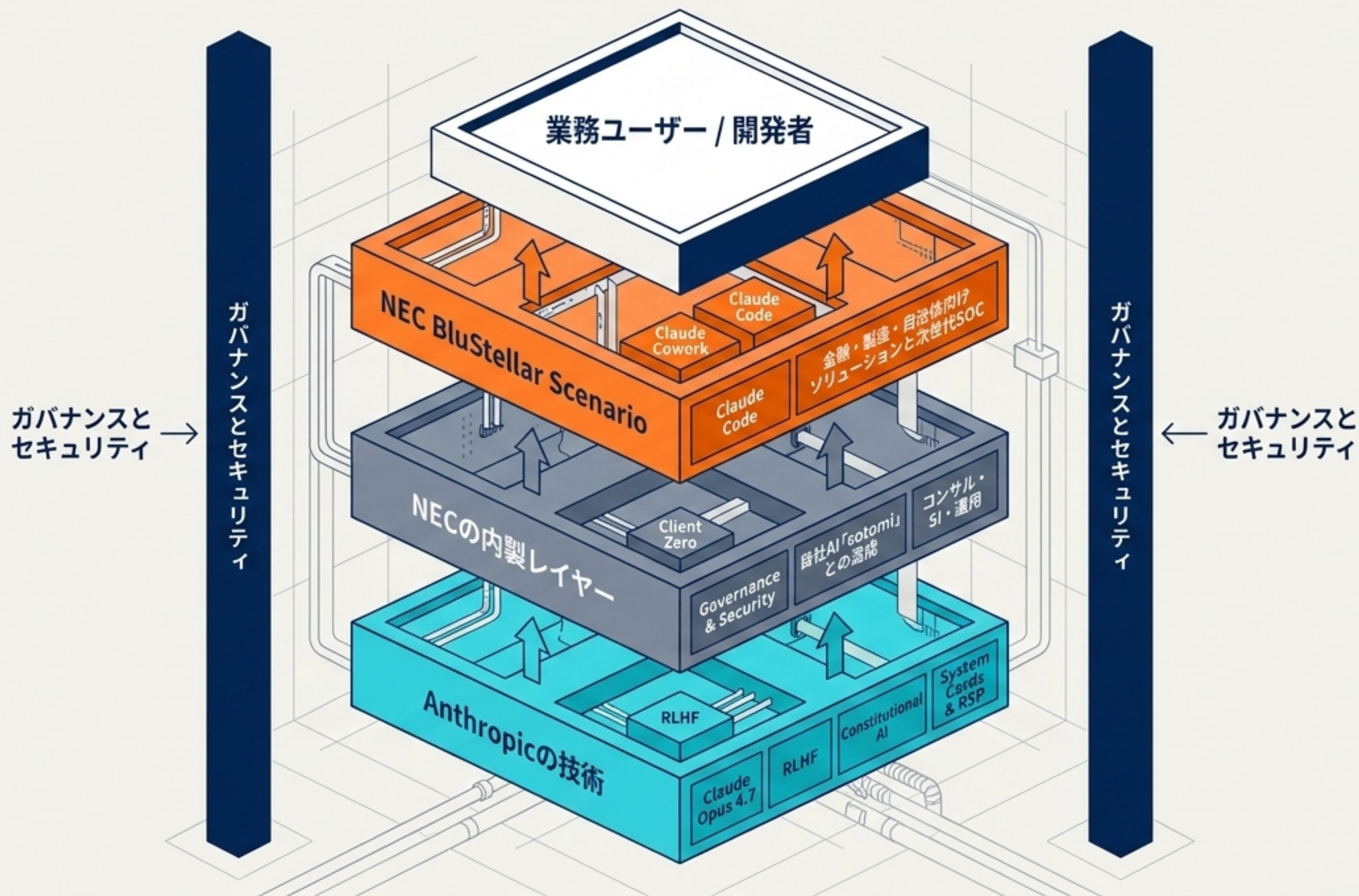


単なる販売提携ではない。規制産業向けの「実装同盟」である。



結論：NECに欠けていた「フロンティアモデル」と、Anthropicに欠けていた「日本の規制産業への実装ノウハウ」を補完し合う完全なパズル。

# 「AIスタック」の階層構造：フロンティアAIを現場業務に接続する経路



# 華々しい発表の裏側：公開情報と「未公開の商用条件」

## 公開済み (Disclosed)

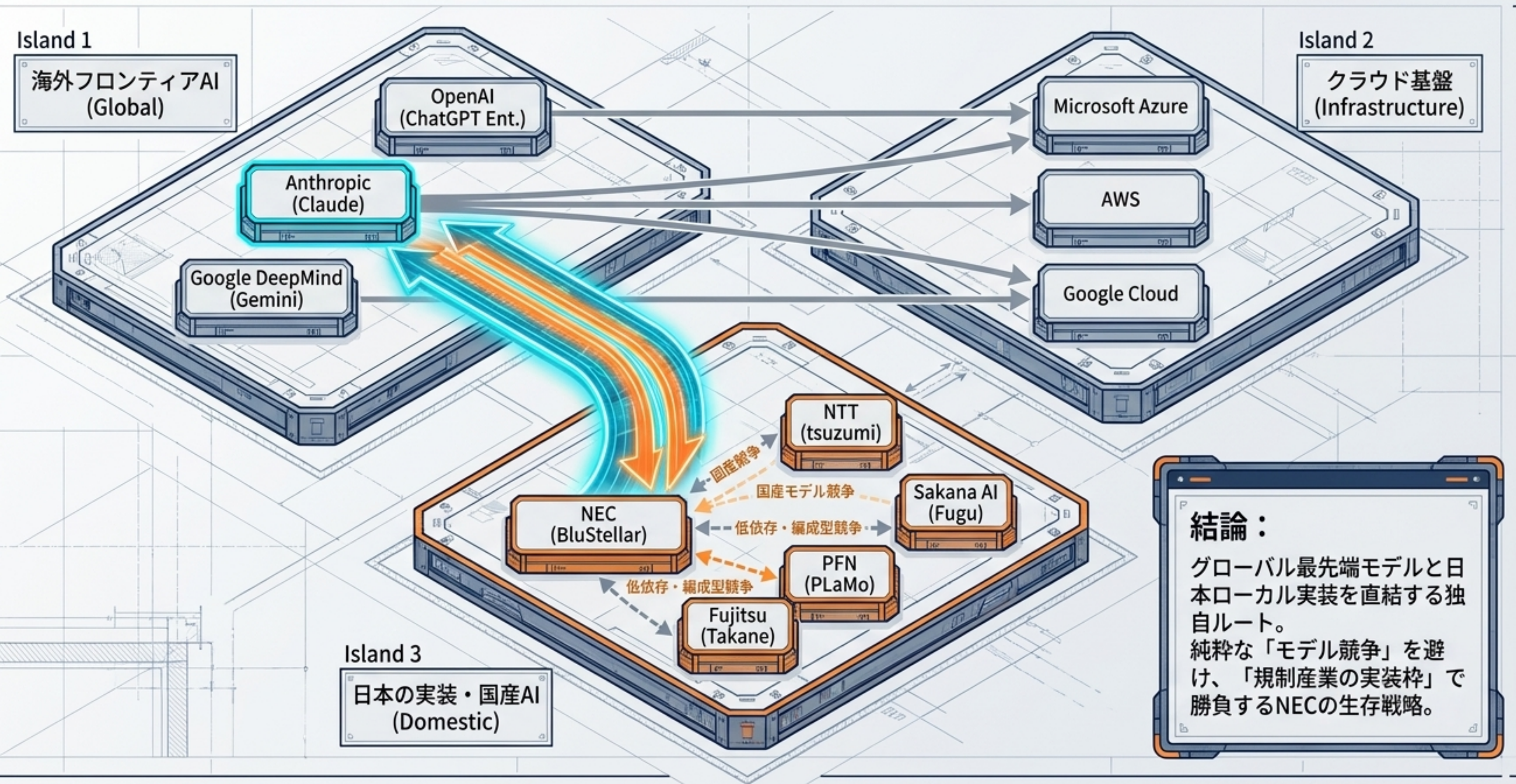
- 3万人規模の社内展開とAIネイティブ人材育成 (CoE)
- 商用データは既定で学習不使用、API通常30日削除
- BluStellarへの組み込みと金融・製造・自治体特化の開発

## 未公開・ブラックボックス (Undisclosed)

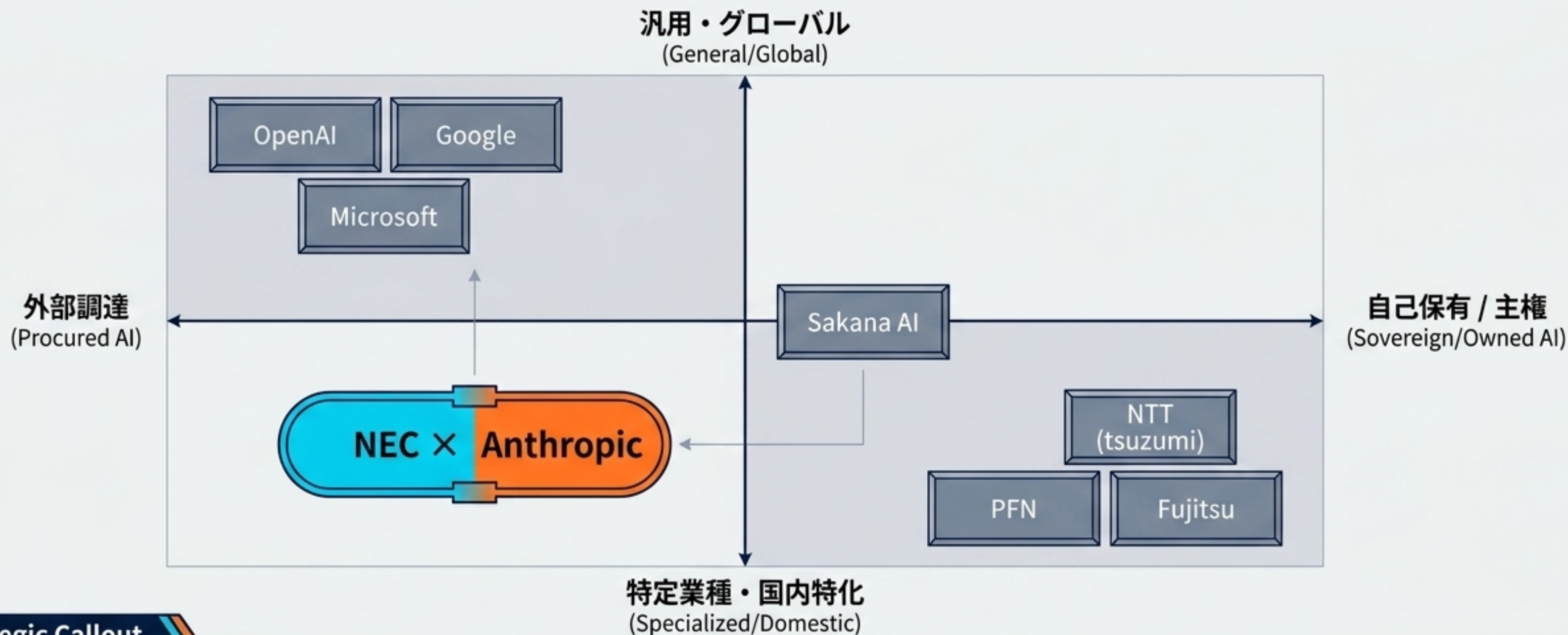
- クラウド構成: 実際の推論基盤・専用環境の物理的所在地はどこか？
- データ主権: モデルの重みの所在地と、日本国内での完全保管(Sovereignty)の有無。
- 個別SLAと権利: 共同開発成果物のIP帰属、売上配分、独自のオプトアウト条件。

結論：金融・自治体への本格導入の成否は、発表内容ではなく「個別実装時のデータ統制設計」に依存する。

# 競争環境マップ：グローバルとローカルを繋ぐ特異なポジション



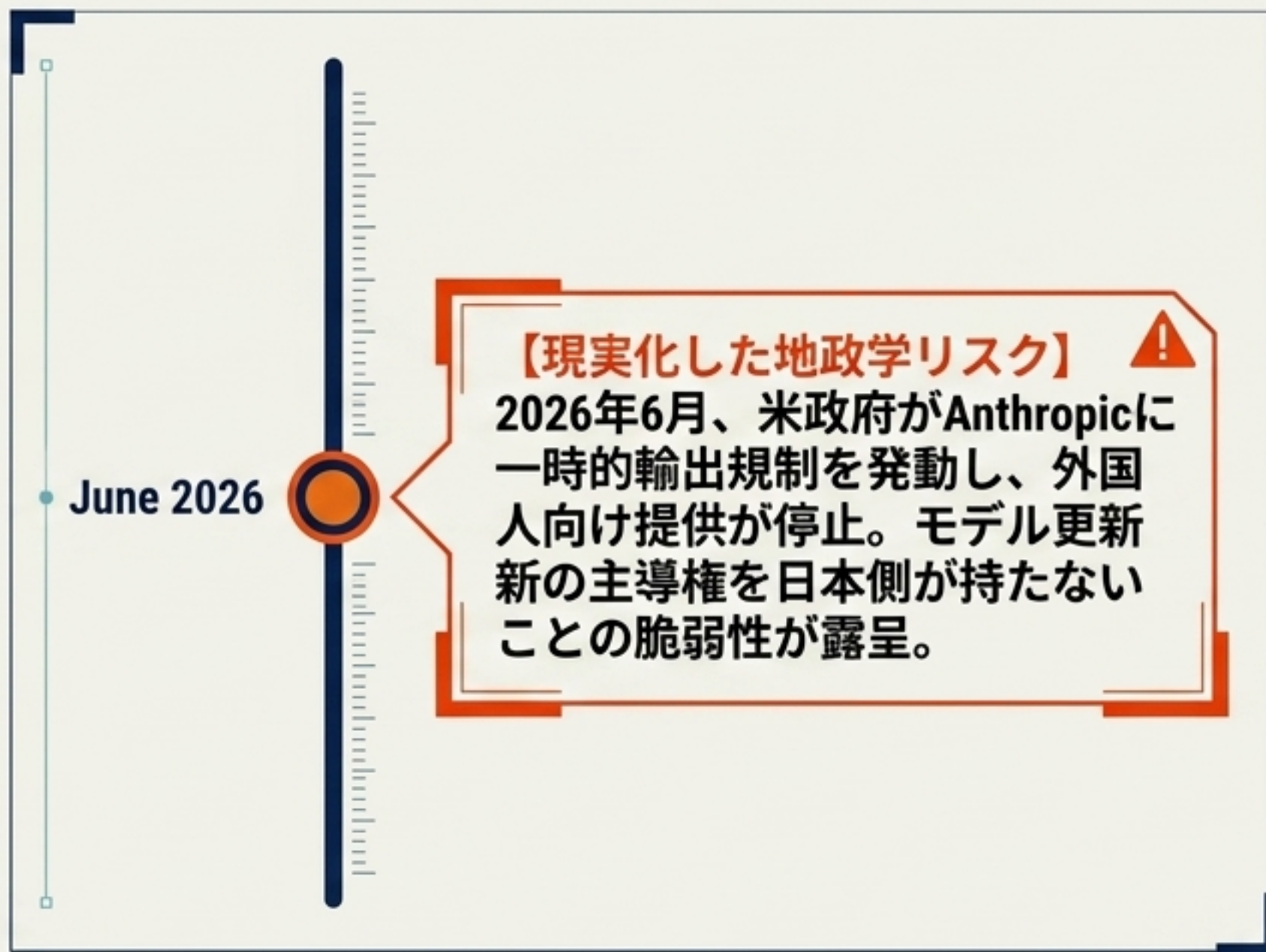
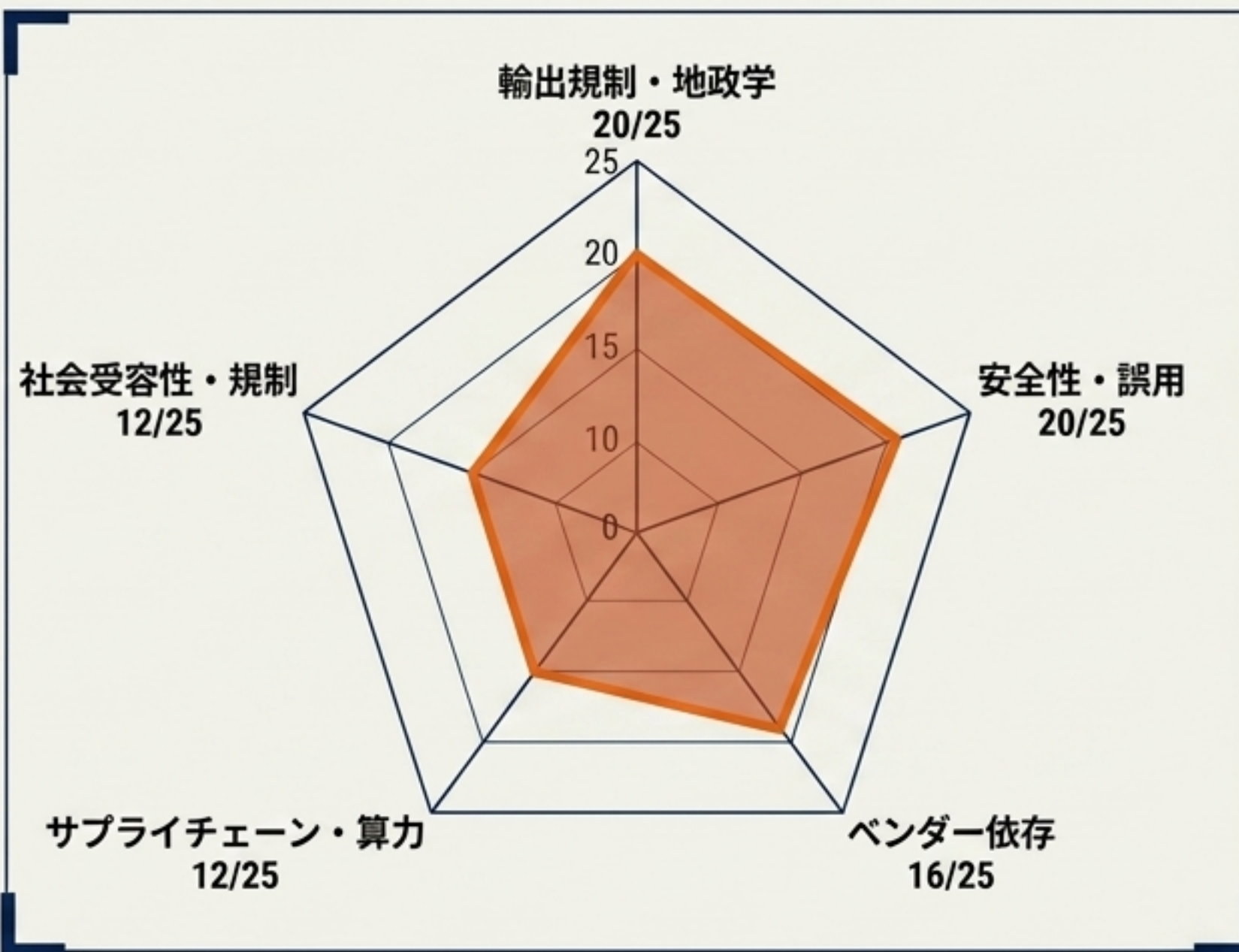
# 競合プレイヤー診断：各社のポジショニングと戦い方



## Strategic Callout

NECの強みは「モデル開発」ではなく「SI・セキュリティ・社会実装の信頼性」。  
直接競合は外資ではなく、国内実装を争うNTTやFujitsuとなる。

# 潜在的リスクの評価：完全依存がもたらす「主権の不在」



**結論：モデルの優位性よりも、有事の際に「代替モデルへ移行できる設計（多モデル切替アーキテクチャ）」を持つかがエンタープライズの生命線となる。**

# 生き残るための「二層戦略（Dual-Layer Strategy）」

## 「使うAI」

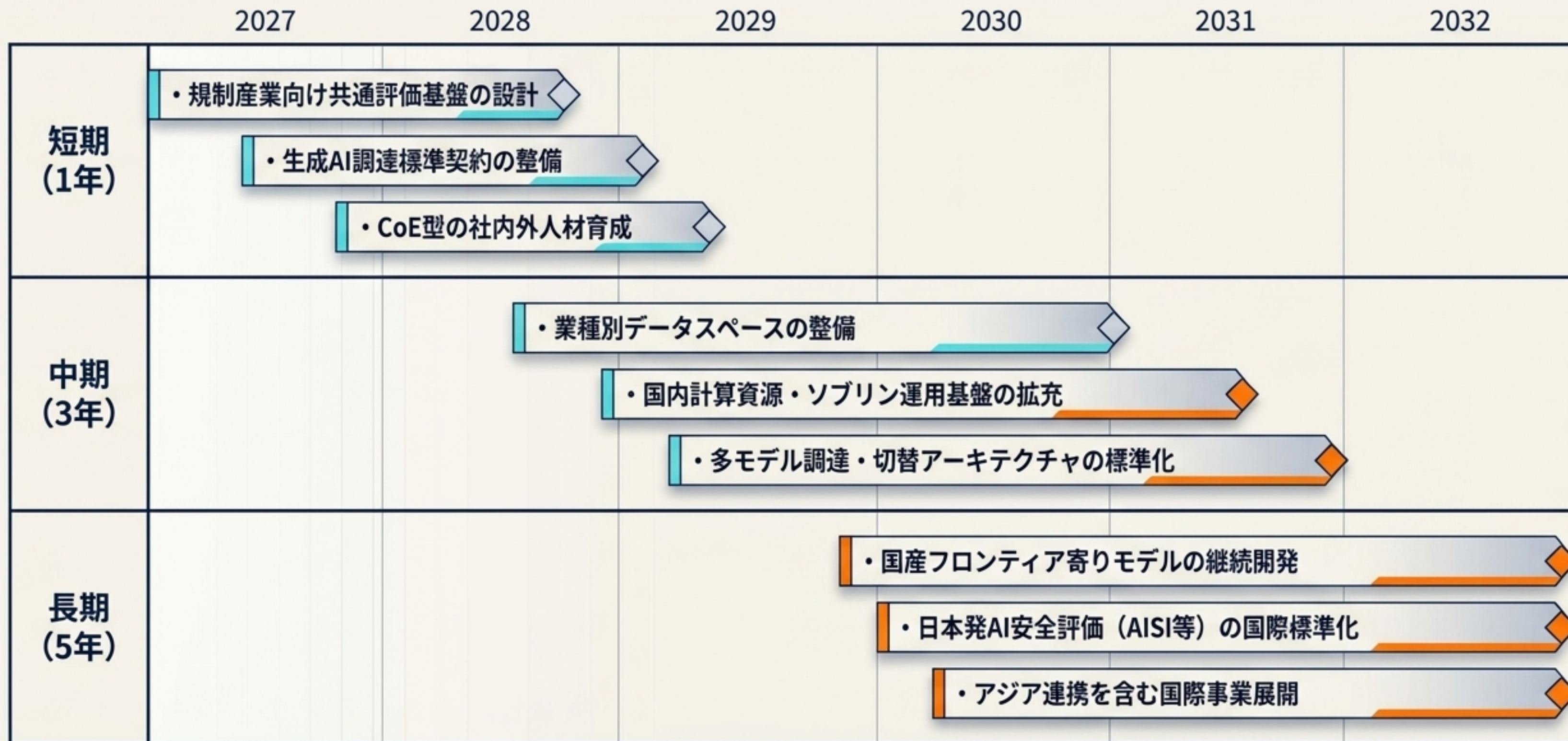
- 短期的な競争力確保と業務効率化
- 圧倒的な性能を持つ海外フロンティアモデルの積極活用

二項対立ではない。  
「海外モデル依存の現実」を受け入れつつ、  
裏側で「国産主権のセーフティネット」を  
構築するデュアルトラックのみが、  
日本のAI産業を周辺化から救う。

## 「持つAI」

- 中長期の安全保障、コスト統制、  
データ主権の確立
- 国内計算基盤の育成と国産特化モデルの実装

# 日本の国産AI競争力強化に向けた実行ロードマップ



## 最強のモデルではなく、最強の「統制力」が勝負を決める。

- NECとAnthropicの協業は、AIの戦場が「パラメータ数」から「規制産業でのセキュアな実装力」へ移行したことを告げる号砲である。
- 海外フロンティアAIによる短期的な変革スピードを享受しながらも、単一ベンダー依存の地政学リスクを回避する。
- 「使うAI」と「持つAI」を並行して走らせる高度な調達・監査アーキテクチャを築けた企業のみが、AI時代のエッジを握る。

